

麦づくり情報(No.2)



1. 麦作況情報田の生育概況(1月19日調査)

場所	品種名		播種日	苗立数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	概況
牛津	サチホゴールデン 4条播き	本年値	12/7	132	5.8	263	2.5	苗立数は平年と同程度。(100%) 草丈は昨年より低い。(72%) 茎数は昨年より多い。(142%) 葉令からみた生育は平年に比べ、やや遅い～同程度。
		平年値	12/10	132	8.1	186	2.7	
		農試本年値	12/10	—	7.3	149	1.2	
		農試平年値	12/10	—	8.3	184	2.3	
大和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/18	138	8.2	580	5.5	苗立数は平年よりやや少ない(91%)。 草丈は平年より低い。(88%) 茎数は平年より多い。(250%) 葉令からみた生育は平年に比べ、同程度～早い。
		平年値	11/28	152	9.3	232	3.5	
		農試本年値	11/20	—	10.1	512	4.6	
		農試平年値	11/20	—	13.1	433	4.9	

気象概況

1月2半旬の平均気温は、寒波に見舞われたことで平年比▲5.3℃と非常に低く推移し、降雨量は降雪があったものの平年より83%と少なかった。日照時間は平年より72%短かった。その後の天候は回復し、1月3～4半旬の平均気温は平年並みで推移し(平年比+0.8℃)、降雨量は平年比13%と少なく、日照時間は平年比169%と長くなった。

生育概況

11月中旬播種の小麦は、低温により生育が停滞気味だが、現在5～6葉期となっている。分けつの発生は旺盛で、平年より生育は進んでいる。12月上旬播種の大麦は、播種後の乾燥や低温の影響により出芽にバラつきがみられたが、現在2～3葉期となっており、一部分けつの発生が見られ始めている。

2. 今後の管理

○追肥

- ・地域の暦に応じて、基準量を施用する。
- ・施用時期の目安は、本葉3～4葉期
- ・12月上旬播種の大麦は、施用時期が近づいている。圃場を確認する。
- ・肥効を高めるため、施用後に土入れを実施する。

※出芽揃い期が年明けとなった圃場は、晩播同様の管理と考え、追肥を施用しない。

※大豆跡は暦を参考に減肥する(大麦圃場は施肥しない)。

○麦踏み・土入れ

＜麦踏み＞・3葉期以降から始める。早期に行うと断根や土壌の硬化等による初期生育を阻害することがあるため、特に出芽が遅れた圃場では生育を確認して実施する。また、土壌が湿潤な状態で行うと、土が締まることで通気性が低下し、根の活性を阻害するため、必ず土壌が乾燥した状態で行う。

- ・麦踏みの最終時期は節間伸長開始時期～莖立期まで(草丈20～25cm程度)

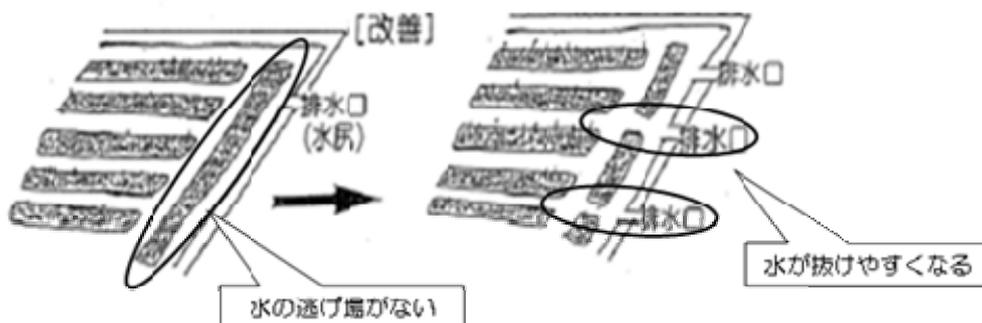
- ＜土入れ＞・本葉5～6葉期から、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- ・出芽遅れなどにより生育が遅れている圃場は、生育が進んでから行う。
 - ・土の量は、生育初期は少なめにし、生育が進むにつれて量を増していく。
 - ・肥効を高めるため、追肥や穂肥後に行うと効果的である。

播種量を多く播種した圃場

過剰な麦踏みは控え、土入れを例年より1～2回増やし、過剰分げつの抑制を図るように管理する。

○排水対策

生育期間中の湿害が根の張りに大きく影響する。また、今後は降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、降雨が多くなる前に、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないように、管理する。



○雑草対策

一部の圃場で雑草の発生が目立っているため、除草剤の処理時期を逸しないように早めに対処する。

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 ※メテポロ 加ノグサ	5～10g	100L	は種後～節間伸長前 (メテポロ5葉期まで) (加ノグサ1～3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・加ノグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期) (広葉発生揃～6葉期、ヤエムグラ4葉期まで)	2回以内	・ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50～100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4葉期) (ヤエムグラ2～6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラに効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

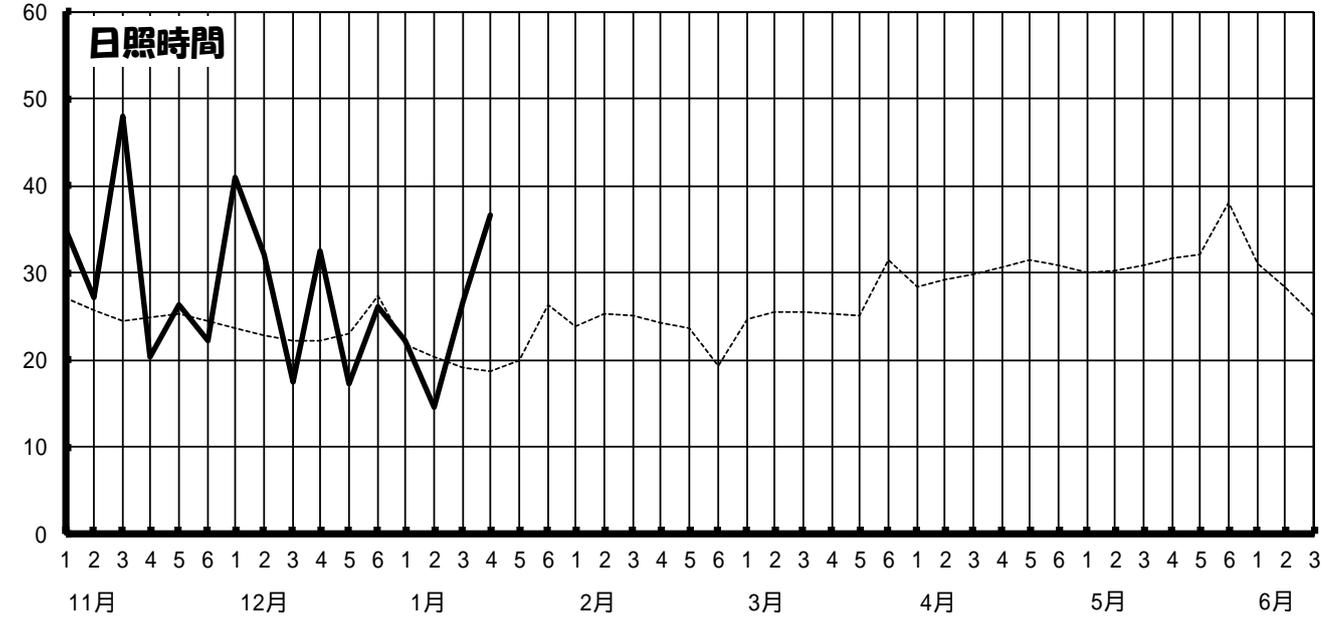
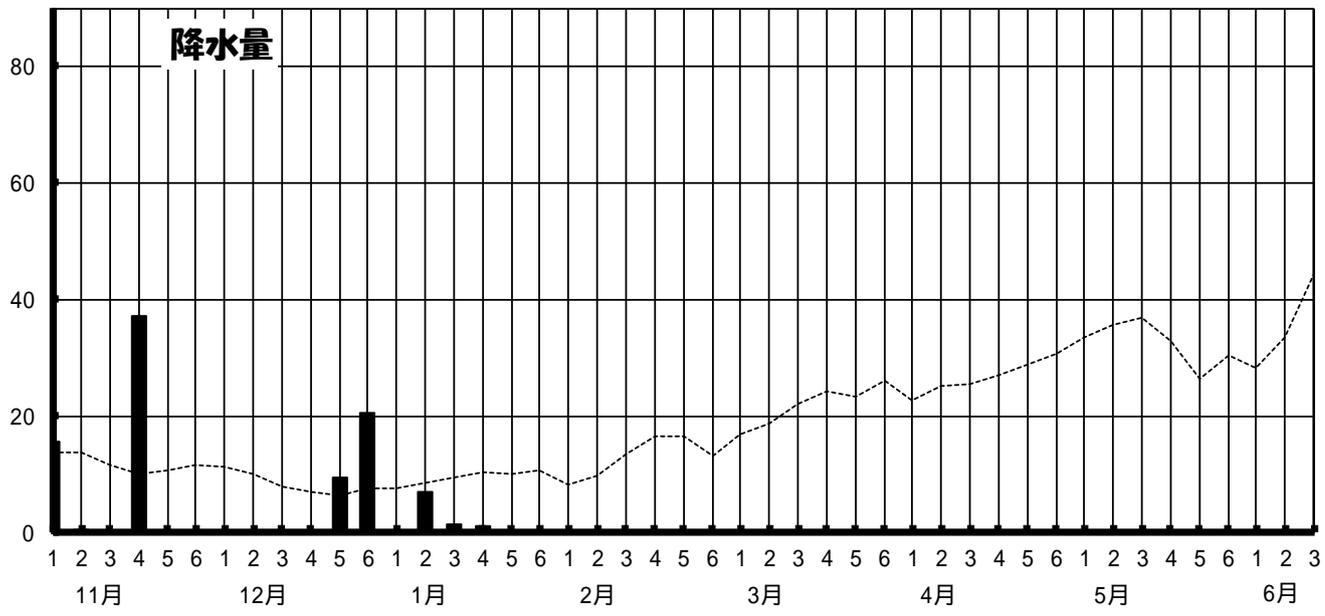
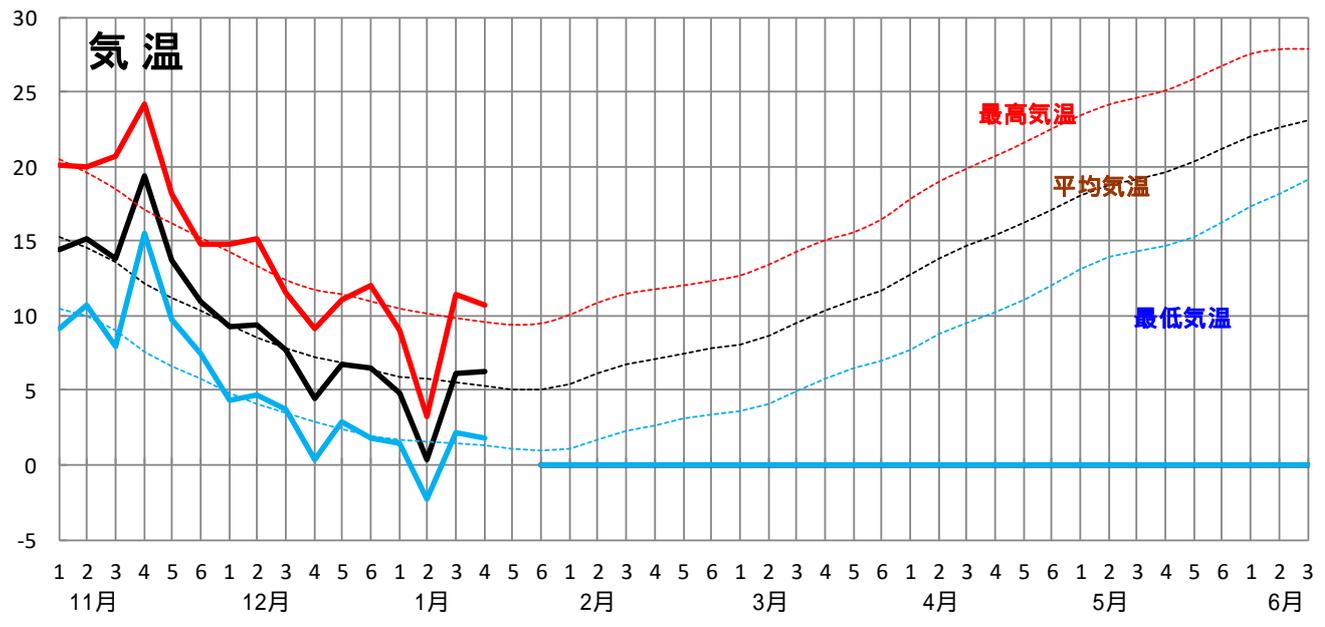
※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- ・効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける。

令和3年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値